

ノイズ東京ボイス



※「稲門コミュニティ」の「早稲田学報 ONLINE」にてライブ映像と音源をお楽しみいただけます

徳久ウイリアム幸太郎（一九九七年商学）

在学中は体育会柔道部在籍。ボイスパフォーマー。音楽留学などを通してモンゴル西北部周辺に存在する特殊な歌唱法（倍音唱法とも呼ばれる「ホーメイ」）を習得。ホーメイフェスティバルで、バンド部門二位を獲得。現在、ノイズ合唱団主宰をはじめ、多様な声の表現を武器に、さまざまなジャンルを横断しながら活動中。

大学卒業後に音楽活動を始めた私は、自分の持つ唯一の楽器「声」の可能性を追求することにした。特殊な声と聞けばありとあらゆる音楽を聴き、真似してきた。同時に、東京ならではの表現を模索した。

ある時、私は「ノイズ音楽」の存在を知った。リズムも和音もメロディーもない。ただノイズが流れる「音楽」。多くのノイズ音楽のミュージシャンは機械を使う。が、私はこれを声だけで表現してみようと考えた。

そんな訳で、私は今、「ノイズ合唱団」なるバンドを主宰している。メンバーも、ライブの客も、ノイズ音楽のノの字も知らなかったのがほとんどだ。が、ノイズが溢れる東京の住人には、ノイズは音楽に聞こえ得るのだ。いずれのライブでも好評を得ている。

最近、気になるのは日本の伝統芸能の存在だ。私は世界中の音楽を聴いたが、世界を聴けば聴くほど、日本の伝統芸能の特異性が際立った。そこには人間と音楽に関するありとあらゆる高度なノウハウが詰まっている。今後は、伝統文化の豊かなエッセンスを吸収して、「現代の東京」ならではの表現に磨きをかけたかと思っている。

最後に。私の表現は、「明るい」「悲しい」といった二元論では割り切れない、複雑な感情を引き起こすことだろう。が、それが生きていることだと思ふ。また、どんな性能のよいスピーカーも、生の音を完全に再現することは不可能だ。どうか気軽にライブに足を運んで、生の表現を感じてほしい。